

● 社会福祉法人春陽会「ディアフレンズ美浜」について 花光和久 会員

まず、(社福)春陽会「ディアフレンズ美浜」と千葉西ロータリークラブの関係・歴史について説明します
(社福)春陽会は、1958年(昭和33年)養護学校設立を目指し、「手足の不自由な子供を育てる会」として発足し、後に「千葉県肢体不自由児父母の会」に名称を変更しました。

2000年(平成12年)社会福祉法人春陽会が設立認可され、千葉市より施設建設用地貸与を受けました。

初代の理事長は故臼井春江子さんで、現在の理事長である元衆議院議員の臼井日出男氏の母親です
2001年(平成13年)3月に「千葉市肢体不自由児父母の会」が中心となりディアフレンズ美浜が開所しました。
この会の家族が浜野作業所・亥鼻作業所などに集まり餅つきのイベントを行っていました。

そして、このイベントに白峰会が参加支援をしていたそうです。(ここに会員がたぶん自主参加か?)

白峰会とは、1973年(昭和48年)6名の有志で発足しました。P23・P55

1. 白峰会代表の平早氏は、もと千葉市職員で退職後事業を興す
2. 千葉西RCの(1984-85)第10代幹事と(1988-89)第14代会長を務めました。
3. 白峰会には複数の千葉西RCの会員も白峰会の賛助会員になった。

ここからの話は「千葉西ロータリークラブ20年の軌跡」からの引用です。

1984年に、この餅つきイベントの支援として、千葉西RC会員が労力を提供したのが始まりです

1980年 お寿司の会イベントに参加開始 P61

佐藤年度(1984-85) 亥鼻の福祉施設(作業所)で労力支援開始 P23,P55

浜田年度(1985-86) 亥鼻の福祉作業所に臼・杵一式を寄贈 P55

(時期不詳) 餅つき機2台を寄贈

(時期不詳) 「お寿司の会」に援助 P23

(時期不詳) 山崎会員(平安閣)が、握りたてのお寿司を食べさせようと企画し、寿司の会の参加か?

そして時期は不明ですが、労力支援から白峰会との共同事業へ変遷し、賛助金を拠出していった

1987年 大型プロパンガス台一式贈呈する。P59

1989年 鎌取の施設にて餅つき大会開催する。 P63

1989年 9年継続のすしの会が礼状を受領 P61

2001年 DF美浜が創立されそれに伴い支援先をDF美浜に変更する。

2005年 DF美浜での餅つきに参加する。

2010年 白峰会との共同事業「餅つき・おすしの会」が終結しました。

白峰会との共同事業「餅つき・おすしの会」の終結に伴い、夏祭りの支援を増額し現在へ続いています。

蛇足ですが、この会に参加する時は「白峰会名いりのハッピー」が貸与されました。

春陽会は、毎年当クラブ納涼例会に参加し、当クラブは夏祭り(F美浜フェスタ)へ参加しています。

以上が、「千葉西RC」「春陽会・DF美浜」「白峰会」の関係・歴史です。



● 社会福祉法人千葉いのちの電話について 友田直人 会員

◆ 千葉いのちの電話は、眠らぬダイヤルとして自殺予防を使命とし1989年10月1日、全国33番目のセンターとして開局しました。

当初は「電話で何が出来るのか」とか「ボランティアが自殺を考える人の重い話など聴けない」などと言われたりもしました。しかし、実際にはじめてみると、約2年間の厳しい研修にもかかわらず、多くの方が相談員養成講座の受講生として応募し、今までに約1,160名が認定され、24時間365日の眠らぬダイヤルを支えて、28年間活動を続けています。

平成28年度は、年間17,844件(1日平均49件)で、今までに約613,000件の電話を受けてきました。

世の中には、心理や精神などの資格をもった専門家も多くおられますが、専門的・医学的なアドバイスなどではなく、「聴く」ことについては、いのちの電話のボランティア相談員は専門家であると思っています。



◆ いのちの電話活動は、無給で自発的に参加するボランティア活動です。相談員となっても交通費は自費、守秘義務で、苦しくとも電話の内容を人に話せない、暗い話ばかりで明るい話はまず無い、そんなボランティア活動ですが、「眠らぬダイヤル」の使命を実感するのは、誰もが寝静まった真夜中に、重い内容の電話を受けるときです。

孤独と絶望の果てに、いのちを絶とうと心に決めて、「最後に誰かと話したい」と言われる電話もあります。受話器の向こうに踏切の音がしたり、多量の菓を飲もうとしたり、そんなとき相談員は、追い詰められたところを語っていただき、傾聴し、そこに共に居ることくらいしかできません。生きる勇気へと気持ちを变えていただくには、多くの時間と、場合によっては多くの相談員の「聴く気持ち」が必要になります。

◆ 自殺(自死)は身近に存在します。昨年の自殺者数は21,140人で、2003年をピークに減少傾向が続いていますが、今年、厚生労働省の1~11月の集計で19歳以下は516人と前年同期より29人多く、20代も2,053人と若年層の自殺が問題視されています。

昨年は、ツイッターに自殺願望を投稿した若者が狙われた、神奈川県座間市の事件も社会問題になりました。